代協の社会貢献活動インタビュー

高校生に事故防止への思い伝える

福井県代協　出前講座プロジェクトチーム

延べ26校で安全教育出前講座を実施

今では代協独自の社会貢献事業のひとつとして定着している、会員代理店が講師となり、運転免許取得を控えた高校3年生を対象に実施する安全教育出前講座。平成22年に富山県代協で始まり、その後、全国的な活動へと広がっていった。なかでも熱心に取り組んでいるのが福井県代協（水野文紀会長）である。昨年7月には全国初となる教職員向け出前講座を実施。これまでの実施校は延べ26校（うち教職員向け1校）、受講者の累計は約4700名にのぼる（1月実施予定分含む）。そこで、出前講座プロジェクトチームのリーダーである下村文則理事、講師を務める板倉行規常任理事、河野渡理事に話を聞いた。なお、メンバーはほかに辻大助常任理事、会員の上島祥司氏の計5名。

代協がやるべき社会貢献

講師の経験が仕事にも役立った

（左から）板倉常任理事、下村理事、河野理事

―　福井県代協では平成23年から高校生向けに出前講座を実施しているが、そのきっかけは。

下村　同じ北陸地域で、日本代協教育委員会でもつながりがあった富山県代協の砂川武司さんから出前講座「『車社会』へ出る高校生の君たちへ…」の構想を聞いたとき、その趣旨に感銘を受け、即座に「代協がやるべき社会貢献はこれだ」「われわれにしかできないことだ」と確信した。当時の松井峰晴会長を説得し、高校生に年齢が近い若手会員を中心に講師候補を人選し、プロジェクトチームを立ち上げ、準備を始めた。

ただ、われわれが一方的にやると決めても、講座を受け入れてくれる高校をどう探せばいいのかわからなかった。県の教育委員会に相談すると、県内の高校の校長先生が集まる校長会というのがあるのを知り、そこで1分間のプレゼンができることになった。幸い初年度は4校から声をかけてもらった。今では毎年、校長会でプレゼンをさせてもらっており、実施校も増えてきている。

―　講座の内容は。

下村　パワーポイントを使って、交通事故の原因、車を運転する際の注意点、事故現場ですべきことと4つの責任、命の値段、自動車保険の仕組みなど、免許を取ったときに必要なこと、知っておくべきことを中心に話をしている。それと、飲酒運転による事故が原因で加害者一家が自殺に追い込まれた「日高の遺書」の話は必ず伝えている。内容については、受講した高校生からのアンケートの内容や自分たちの反省を踏まえ、メンバー間で議論し、最新の情報も盛り込みながら、毎年、バージョンアップさせている。

最も心を砕いているのが伝え方だ。高校生は大人の嘘や上辺だけの言葉はすぐに見抜き、通用しない。だから、高校生にも理解できる、わかりやすい平易な言葉を使うのは当然だが、保険代理店であるわれわれだから実感を持って伝えることができる、「交通事故を起こしてほしくない」「交通事故で人生を台なしにしてほしくない」という思いをストレートにぶつけるようにしている。講義というよりは、語りかけるという感じに近い。

私を含め全員が講師の経験のない素人だったので、全員で集まり、気持ちの込め方や話すスピードなど、それぞれが気づいた点を指摘し合い、本番と同様に繰り返し練習をした。流暢に話せなくてもいいから、われわれが高校生に伝えたいことをしっかり頭と体に叩き込んで、自分の言葉で話すことが大事だと思っている。今年度で5年目になるが、今も試行錯誤を続けている。

―　講師を経験した感想を。

板倉　高校生は、交通事故や保険についての知識がほとんどないので、言葉の選び方など苦労する面がある一方で、素直に話を聞いてくれて、吸収力もある。近い将来、自分にも起こり得る身近な問題だということを感じてもらえるよう、こちらが真剣に、そして一生懸命伝えていけば、ちゃんと心に響き、理解してくれる。反応も素直だ。だから、すごくやりがいを感じている。また、講師をしたことで、仕事では味わえない、新しい発見や刺激もある。

とくに強調しているのが、免許を取ったとき、まずやるべきこととして、家の車の保険を確認してほしいということだ。加入しているかどうかはもちろんのこと、年齢条件や運転者の範囲が限定されていないかを、初めて車を運転する前に、必ず親と一緒に確認してほしいと訴えている。

河野　高校生向けの出前講座の講師をやったことで、多くの気づきがあり、勉強になっている。また、誰にでも理解してもらえるように話すことの難しさも感じている。講義をしていて、高校生が私の話を真剣に聞いている姿を見、気持ちがこちらに向いているのを感じると、本当にうれしく、それに応えるため、私もどんどん熱が入る。「伝える」ということについて、より深く考え、意識するようになった。

高校生でなくても、保険は難しいものだと思われている。お客様に対し、高校生にでも理解できる説明の仕方、話し方を、日ごろから心がけるようになり、実際の仕事にも役立っている。講師をやる前と後では、お客様への接し方が変わったと思う。いい機会を与えてもらった。

県内全校での実施目指す

好評だった初の教職員向け講座

全国初の教職員向け出前講座（福井県立武生高校）

―　昨年7月には教職員向けに出前講座を実施したが。

下村　県立武生高校から「教職員向けにできるか？」との問い合わせがあり、「是非やらせてください」と実現した。武生高校は県内トップクラスの進学校で、3年生の多くは大学受験を控えていることもあって、高校生向けの出前講座は一度もなく、正直驚いた。

教職員向けの出前講座を実施するにあたっては、われわれの思いを「先生に伝える」だけでなく、「先生から生徒へ伝えてもらう」ということに重点を置き、内容も少し違うものにした。約100名の先生が参加し、思った以上に好評だった。アンケートにも熱い感想が書かれていて、手応えを感じた。何かしらきっと心に残るものがあったはずで、そのうちのひとつでもいいから、先生から生徒たちへ伝えてもらえればと期待している。

これまでの実績からいえば、実施校の多くは職業系の高校だ。卒業後に仕事などですぐに車を運転する予定の生徒が多く在籍する高校のほうが積極的である。ただ、福井県は典型的な車社会であり、生活に車が欠かせない。親、先生、そして地域の大人たちが、交通事故の怖さ、車社会に出ることの責任の重さについて、子どもたちに伝えていくことが必要で、代協がその先頭に立って取り組まないといけないし、その使命があると思っている。だから、教職員向けの出前講座の意義は大きく、今後も継続して実施できるよう校長会などの場でアピールしていきたい。

―　今後の抱負は。

河野　個人的には、講師としてのスキルをもっと向上させたい。それと、私の代理店事務所がある嶺南地方（敦賀市、小浜市など）での実施校がまだ1校のみなので、もっと増やしていきたい。これは、プロジェクトチームのメンバー全員の思いでもあるが、将来は県内のすべての高校で出前講座を実施し、ひとりでも多くの高校生に聞いてもらいたい。

板倉　われわれの話を聞いた高校生が、いずれ自分で車を買い、自動車保険に入る際、出前講座のことを思い出し、「保険に入るなら、福井県代協の会員から」と指名してくれたら、うれしい。今後、出前講座を継続させ、さらに拡大させていくためにも、若手会員のなかから講師ができる人を増やし、育てていきたい。

下村　高校生・教職員向けだけでなく、小中学生に対する自転車講座や高齢者向けの講座なども構想中である。リスクがあるところならどこへでも出前するつもりだ。出前講座を受講する人がもっと増え、そのことで県内での交通事故が減り、悲しむ人がひとりでも減ることが、われわれの目指すところだ。将来、この講座を聞いた若者の保険代理店に対するイメージがアップし、将来の職業として代理店を選び、代協の仲間となって一緒に活動できる日がくるとうれしい。そんな日を夢みている。